

【掲載内容】

- ◎九州手話サークル連絡協議会会長
中元教博挨拶
- ◎事務局長退任の挨拶
- ◎第20回九手連研修会報告

【更なる組織力の強化を目指して】

九州手話サークル連絡協議会
会長 中元教博

平成24年度のスタートに当たり、ご挨拶を申し上げます。

私達は「九州は一つ」というスローガンの下、各県手連や関係団体と連携を図り、聴覚障害者の生活と権利を守ると共に、その福祉に寄与することを目的に活動を行っています。

早いもので、手話サークルが各地に結成され半世紀近くになります。聴覚障害者の方々が現在の手話サークルに望むものは何か、現状を的確に分析し「我々に要求されるものは何か」を考え直す時期になっているのではないかと思います。

九手連30周年のおり中長期を見据え制定した「九手連指針」完遂まで後僅かとなりました。

激動する社会のうねりの中、まだまだ私達の果たす役割は大きく、より存在感を表す必要があると思います。

そのためにも、常に聴覚障害者から信頼される手話サークルであり、手話通訳者を目指す必要があります。

活動の原点は手話サークルにあり、手話サークル活動の発展・拡大なくして、私達の願

いは実現しないと考えます。

そのためには、「静から動」そして「一步前進」・「継続と定着」を展開しています。

今後も理事会等を中心に「議論と対話」を重ね「更なる組織力の強化を目指して」着実に前進して行きたいと考えております。

最後に、皆さま方の益々のご健勝とご活躍をお祈りすると共に、私どもの活動に対し更なるご理解とご協力をお願いいたします。



(幹部会議の様子)

【事務局長退任のごあいさつ】

前 渕 洋 一

事務局長をやっていた福岡県の鳥山君が県手連の会長に就任することになり、事務局長をやることになりました。平成12年のことでした。

私としては代打のつもりで引き受けました。以来12年間、九手連基金の設置、九手連指針の制定、九手連基金規程の創設などに関わってきました。如何せん馴れない事務局であったために、理事及び会員の皆様には多大なるご迷惑をおかけしたと思います。

しかし、最初から完璧にやれる人間って、

いるでしょうか？失敗を重ねてこそ人間として成長があると思います。私自身失敗を繰り返しながら勉強し、成長させていただきました。

事務局長をやっていると、確かに気が滅入る時もありますが、それはそれとして、いい思い出として残っています。

いろんな人との出会いもありました。おかげさまで交友関係も広まりました。また研修会の内容とか方針とかが事務局のツルの一声で決まったりすることもありました。(K県のSさんありがとうございました)

皆さんが喜んでる姿を見たり、ありがとうとお礼をいわれる時があります。今までの苦労はその一瞬で吹き飛び、喜びに変わります。いわば事務局だけに与えられた特権であります。

最後になりましたが、こんな私をお引き立ていただいた前会長・村本宗和氏にお礼を申し上げ、事務局長退任のごあいさつとします。

12年間、ありがとうございました。

【第20回九手連研修会】



「ろう児を育てて」

講師 乗富 秀人 氏
(デフアーティスト)

6月24日(日)熊本県民交流館パレアに於いて、九手連の研修会が開催されました。午前中の講演は、デフアーティスト乗富秀人先生に

よる「ろう児を育てて」という演題でのお話でした。

乗富先生は東京に生まれ、都立石神井ろう学校専攻科デザイン科を卒業後、フランス、ポルトロワイヤル油絵専門学校に留学。帰国後は、北海道の十勝に移住し、現在は熊本市に在住。デフアートの画家としてご活躍中です。

乗富先生が受けられたろう教育は、「聞こえる人のようになること」が重要視され、学校や家庭では、厳しく口語法を強いられたとの事でした。

家の中でも自分の思いを伝えることができず、とても辛く、学校から家に帰る途中、友達と気兼ねなく手話で話せる時間が唯一、ホッとできる時間だったそうです。

社会に出てからは「自分は口語で十分にやっていける。手話や筆談を使うと負け。」と言う考えから、会社の中ではトラブルも多く、口話によるコミュニケーションの不十分さを知りショックを受けたとのことでした。

その後、フランスに渡り油絵を学び現地の人と関わる中で、ありのままの自分で良いという事に気づいたそうです。

帰国後、結婚し、生まれた子どもさんも耳が聞こえなかったそうですが、子どもには自分と同じような辛い思いはさせたくないという思いから、手話を使った子育てを現在進行中であり、子どもさんは、自然に手話を覚えながら色々な事を学び、のびのびと育っているというお話でした。

手話は生きる力であり、分かりあえる事の大切さを改めて感じた研修会でした。

(佐賀県 山口)



「災害時のボランティア活動について」

講師 旭 芳郎 氏

(NPO 法人島原ボランティア協議会)

手話仲間3人で熊本で開催される九手連研修会へ参加した。

午前中は、乗富秀人先生の講演会。

先生は、フランスで絵を学ぶと共に文化・人種・言語について深く学ばれたようだ。その話の中で、この世は障害者が居ないと「思いやり」は生まれないと話され、私は「そうね～」と深く感動した。

午後からは「災害時のボランティア活動について」旭芳郎先生に受ける側からと支援する側からの話を聞いた。

現地のニーズを考えて何が必要かを調査して自治会で集めてダンボールごと詳しく表記して送る。この時、人材も共に行くことが大切と強く話された。

ボランティアは、地元のボランティアと共にやった方が良いとの事。

災害時・ハンディを持ってる方は、ホイッスルで居場所を知らせることができるので、常に常備しておくが良いと聞いて思い出した。

私も何年か前に防災訓練の時聞いて、ホイッスルは化粧ポーチの中に入れていた。防災訓練には参加することも大切とも話された。

話の中で、びっくりしたことがあった。

救援物資がいろいろ集まるが、ギフト用品、古着等は残ってしまうらしい。

不揃いなので配れないと聞き、びっくり又、これらの処分に資金も必要と聞いてびっくりした。

考えて寄付しなくては… と思った。

佐賀：ひまわり手話の会 永渕あきみ



【編集後記】

みなさん。お元気ですか？

研修会の日、大雨で、JRはもちろん新幹線も遅れたり、間引き運転だったり交通はすべてマヒの中、多くの方に参加して頂きありがとうございました。

6月23日（土）の平成24年度の評議員会も滞りなく終了し、今年度も新たな気持ちでスタートです。

幹部会議では、他県も同様な悩みを持っていて会員維持の工夫モチベーション維持、サークルの在り方等…。

解決！！っとはいきませんでした。他県の活動を参考にしながら、いい意見交換と話し合いができたと思います。

今回、「はっけん」発行に関して、原稿依頼を他県には依頼せず、担当県である佐賀県の参加者と中元会長・前渕前事務局長にお願いをしました。他県の参加者からの感想も載せるべきでしたが、研修会アンケートをまとめましたので、そちらをご覧頂ければと思っております。

中元会長様には前ぶれもなく突然、原稿依頼をし、申し訳ありませんでした。お許してください！

9月8・9日（沖縄県で開催）第61回全九州ろうあ者大会・第40回全九州手話通訳者研修会が控えていますね。

梅雨も明け、夏本番となります。
元気に夏を乗り切りましょう。
ありがとうございました。

A/T

九州手話サークル連絡協議会

(事務局)

〒861-0143

熊本県熊本市北区植木町大和 34-2

森 保夫

発行責任者：中元 教博

広報担当者：辻田亜紀（佐賀）

発行年月日：平成 24 年 8 月 1 日